

北方森林学会・日本木材学会北海道支部合同シンポジウム

## 「北海道胆振東部地震の被災対応と森林再生に向けて」

\*\*\* 講演 \*\*\*

(各講演 25 分程度及び、講演終了後にパネルディスカッションを予定しています)

### 「厚真町における森林の被災状況と対応方針について」

宮 久史 (厚真町産業経済課 主幹)

### 「災害時における地域材を活用した支援の可能性」

佐々木 貴信 (北海道大学大学院農学研究院 教授)

### 「被災森林の再生に向けた実証実験委託業務の概要と取組状況」

佐藤 創 (北海道立総合研究機構森林研究本部林業試験場  
専門研究主幹)

司会進行：渋谷 正人 (北海道大学大学院農学研究院 教授)

#### 趣旨：

2018年9月6日に発生した北海道胆振東部地震は、林地崩壊をはじめ林業に対しても多くの被害をもたらしました。森林被災地におけるこれまでの対応と今後に向けた取組及び、それらを取りまく課題等について皆様に理解を深めていただくことを目的に、シンポジウムを開催します。

開催日時：2019年11月6日(水) 10:15~11:55

会場：札幌コンベンションセンター2階 小ホール  
(〒003-0006 札幌市白石区東札幌6条1丁目1)

参加費：無料 (どなたでもご参加いただけます)

主催：北方森林学会・日本木材学会北海道支部

問い合わせ先：第68回北方森林学会大会運営委員会

メール：bfs68-ffpri-hkd@gp.affrc.go.jp

## 厚真町における森林の被災状況と対応方針について

厚真町産業経済課 宮 久史

北海道胆振東部地震によって、北海道では4,302haの林地崩壊が生じた。その内3,236ha(75%)が厚真町で発生した林地崩壊である。現在、治山事業等による崩壊面に対する対策工事に加え、寸断された林道についても復旧工事が実施されている。また、厚真町においては研究者や関係機関を構成委員とする「厚真町森林再生・林業復興検討会議」を設置し、被災した山林及び残存森林に対する対応方法の検討を進めている。今回は、被災直後の状況から、これからの検討課題等について報告する。

## 災害時における地域材を活用した支援の可能性

北海道大学大学院農学研究院 佐々木貴信

近年、多発する自然災害においては、インフラの早期復旧のために、倒木や流木の処理が不可欠となる。一方で、木材の軽さや加工性の良さを活かし、災害時に発生した木材を応急的な橋や仮設道路に用いるという可能性もある。秋田県立大学木材高度加工研究所では、東日本大震災で被災した岩手県大槌町において、同研究所が開発した簡易移動製材機を用いたオンサイト生産システムを用いて、復興支援に活用した経験があり、北海道胆振東部地震で被災した厚真町において、同システムの導入の可能性を検討した。ここでは、移動式製材機の活用事例や、災害時における地域材を活用した支援の可能性と課題について述べる。

## 被災森林の再生に向けた実証試験委託業務の概要と取組状況

北海道立総合研究機構森林研究本部林業試験場 佐藤 創

今回の地震で発生した約4,300haの崩壊地の約1/3は人工林であったこと、また植生が失われた状態では水土保持、景観保全の面で悪影響を及ぼすことから森林の再生が望まれている。道ではH31年4月に「北海道胆振東部地震による被災森林の再生に向けた対応方針」を策定し、それにもとづいて林業試験場では道からの委託を受けて、崩壊地における植生回復手法の開発に着手したところである。その研究開発のポイントとなる①生育基盤としての土壌条件の判定基準の作成と②土壌条件別の植生導入試験について報告する。